

謹賀
新年



いわき市

農業委員会だより

編集・発行 いわき市農業委員会

2021

令和3年1月1日発行

No.188

〒970-8026
いわき市平字堂根町4-8
TEL.0246(22)7534
FAX.0246(22)7538



新春を彩る若菜の香り

二〇二一年、心新たに新春のお慶びを申し上げます。
皆様方には今年の新年は、不安と希望・期待の複雑な心境で迎えられたことと思います。昨年、大きな災害の無い一年の安寧を念じてのスタートでしたが一変、三月から誰もが予測しない「新型コロナウイルス禍」が世界中で猛威を振るい、未だに終息どころか第三波・四波の感染対策に追われ、早急のワクチンの開発・実用化が切望されています。



いわき市農業委員会
会長 草野庄一

年頭ごあいさつ



我々、十六期農業委員・農地利用最適化推進委員は、任期三年の折返しでの、心新たにスタートの出鼻を挫かれ、過去の経験が無い環境の中、委員・事務局が一丸となり刻々と変わる状況に合わせ、三密回避は勿論、感染症対策に万全を期しながら、許認可業務をはじめ、農地の権利移動の実態を把握する為、農業委員・農地利用最適化推進委員による「農地パトロール」を実施し、違反転用の現地調査と近年増加傾向にある太陽光発電設備の設置管理状況を調査し、適切な指導をするなど、可能な限りの任務に努めて参りました。
また、市農林水産部各課の事業説明会を開催し、我々委員の現場の声や問題点、市の施策に対しての要望等の意見を交換し、今後の更なる協力と情報の共有を確認しました。
新年を迎え、任期半年の残されたコロナ禍の中、集落を守り農地を維持し、担い手への集約などに位置づけられていた両委員が「集落話し合い」のリーダーとなり、「農地を守り、どう活かすか」を共に考え行動して参りますので、今年も宜しくお願い致します。

農業委員・農地利用最適化推進委員を募集

募集期間 令和3年2月1日(月)～令和3年3月1日(月)

※推薦書、応募書は期間内必着

募集人数 農業委員 **24人**
農地利用最適化推進委員 **32人** (担当地区別に定数を設けています)

任期 令和3年7月8日～令和6年7月7日

応募方法 『推薦』と『自らの応募』の2通りの応募方法があります。
応募方法の詳細については、「募集要項」をご覧ください。
募集要項は、1月25日(月)から農業委員会及び各支所の窓口で配布します。
いわき市のホームページ上にも情報を掲載しておりますので、様式等をダウンロードし、ご使用いただけます。

主な職務内容

農業委員



農業委員会の会議に出席し、農地法や他の法令に基づく農地の権利に係る許可等に関して、審議、判断を行います。

農地利用最適化推進委員



現場活動を主に、担当する区域において、※農地等の利用の最適化を推進するための活動を行います。

連携して活動します

※「農地等の利用の最適化」とは、担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進を行うための活動です。

お問い合わせ先

◇農業委員の募集に関すること

農林水産部 農業振興課
いわき市平字梅本21(市役所本庁舎4階)
TEL 0246(22)7471

◇農地利用最適化推進委員の募集に関すること

農業委員会事務局 農政振興係
いわき市平字堂根町4-8(東分庁舎5階)
TEL 0246(22)7534

編集発行

いわき市農業委員会事務局

いわき市平字堂根町4-8(東分庁舎5階)

TEL 0246(22)7534 FAX 0246(22)7538 e-mail nogyo@city.iwaki.lg.jp

令和2年度福島県下農業委員会大会参加報告

去る11月12日、福島市飯坂町の「パルセイイざか」で令和2年度福島県下農業委員会大会が開かれました。今回は感染症対策のため参加人数の制限があり、当会からは草野庄一会长、蛭田元起会長職務代理者、表彰対象者の油座勝三農業委員、そのほかに事務局から2名の同行があり、計5名の参加でした。全体では約360名の出席があったようです。

主催者の(一社)福島県農業会議の鈴木理代表理事会長のあいさつがあった後、表彰が行われました。本会関係は次のとおりです。

1. 一般社団法人福島県農業会議代表理事会長表彰
・ 永年勤続農業委員・農地利用最適化推進委員(12年以上在任)

油座勝三氏 阿部浩二氏
いわき市
全国農業新聞普及優良農業委員会(努力賞)

2. 第37回農業委員会情報紙コンクール表彰
・ 福島県農業会議会長賞(優秀賞)
いわき市農業委員会だよりNo.184

表彰の後、鈴木正晃副知事と菅野孝志JA福島五連会長の来賓祝辞がありました。

記念講演の講師は福島大学食農学類の小山良太教授。「震災10年以降の福島県の農業・農村活性化―新たな産地形成と食農連携―」と題する熱弁でした。

主催者事務局からは、本県農業の発展に関する福島県選出国会議員や福島県知事への要請についての報告があり、最後に「農地利用の最適化に向けた申し合わせ」を決議し閉会しました。(執筆 蛭田元起 編集委員長)



令和2年度福島県下農業委員会大会
集活活し合い運動で地域農業を活性化させよう!



去る9月17日(木)ワシントンホテル椿山荘で、農業委員・農地利用最適化推進委員が一堂に会し、第4回全員協議会を開催し、その中でいわき市農林水産部本田和弘部長、渡邊伸一郎次長をはじめ、農業振興課、農地課、林務課の課長を招き、「農林水産部における令和2年度事務事業概要についての勉強会」を行いました。

はじめに、本市農林業に関する主な施策概要等を含め、本田部長から挨拶があり、続いて、各課長から市農林水産部令和2年度事業計画書に沿って詳しい事業内容の説明を受けました。

農業振興課長からは、農業者の高齢化と後継者不足、耕作放棄地の拡大、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故の影響による風評など、農政を取り巻く様々な課題への対応や、本市農業の持続的発展と力強い農業の実現に向けた具体的な取り組みについて、

市農林水産部における令和2年度事務事業概要についての勉強会

て、「市農業・農村振興基本計画」及び「第四期新農業生産振興プラン」に基づき説明が行われました。農地課長からは、「地域を中心とする経営体への農地集積」「農業水利施設の補修・更新」「災害に強い国土・地域の構築」を目的とする農業農村整備事業のほか、国土調査事業の現状と今後について説明いただきました。

林務課長からは、本市の豊富な森林資源の適切な保全と活用、森林環境教育の推進、地域材等の利用拡大、循環型社会に対応した木質バイオマスエネルギーの普及と促進など「豊かな森林づくりと木材利用拡大を目指して」を施策の方向性のテーマとした取り組みについて説明を受けました。

その後、地域の農道を生活道路として利用する市民と農業者との共生について、国土調査の進捗と今後の展望について、家族経営者や担い手確保に向けた支援についてなど、活発な意見交換が行われました。



ポイント

1の説明

農業者なら誰でも入れる「終身年金」です!

①年間60日以上農業に従事し、国民年金第1号被保険者(保険料免除者を除く。)である20歳以上60歳未満の方が加入できます。

高齢農家世帯の家計費は、月額約24万円というデータがあります。

国民年金の支給額は、最大で一人あたり月額6万5千円。これを夫婦でもらっても毎月約10万円の赤字ですので、国民年金の上乗せ年金として農業者年金に加入しましょう。

②農業者年金は、積立方式・確定拠出型で少子高齢時代に強い。

農業者年金は、経営状況や老後の生活設計に応じて、保険料を加入後いつでも月2万円～6万7千円の範囲で、千円単位で変更でき、年払いもできます。また、途中で脱退・再加入もできます。なお、脱退した場合、払った保険料は年金を受給するまで運用し続け、加入期間に関わらず、年金として受給できます。(脱退一時金はありません。)

試算表 農業者年金に加入すれば～ 農業者年金の受給額の試算

加入年齢	納付期間	保険料 納付総額	年金額(年額)		想定される受給総額	
			男性	女性	男性	女性
20歳	40年	960万円	75万円	63万円	1,614万円	1,704万円
30歳	30年	720万円	50万円	42万円	1,071万円	1,131万円
40歳	20年	480万円	30万円	25万円	634万円	670万円
50歳	10年	240万円	13万円	11万円	283万円	299万円

※上のケースは、通常加入で保険料月額2万円で加入し、65歳までの運用利回りが2.5%、65歳以降の予定利率が0.20%となった場合の試算です。受給総額は65歳での農業者年金加入者について想定している平均余命を考慮し、男性86.5歳、女性92歳まで生存した場合の金額です。

※運用利回りは、加入後の経済変動により上下します。制度発足以降の17年間(平成30年度まで)の運用利回りの平均は、年率2.82%です。

※予定利率は毎年度、農林水産省告示により定められ、令和2年度は0.20%となっています。

※各金額は単位未満を四捨五入により表示しています。

死亡一時金もあり安心

80歳前に死亡した場合には、80歳までに受け取る農業者老齢年金の現在価値相当額を一時金として遺族が受け取れます。 ※加入期間等により保険料の払込額を下回る場合があります。

ポイント

2の説明

一定の要件を満たす方には、 保険料の国庫補助があります。

認定農業者で青色申告の方や、その方と家族経営協定を結んだ配偶者・後継者の方など、一定の要件を満たす方には、保険料の国庫補助(月額2万円の保険料のうち最高1万円、通算すると最大で216万円)があります。

この国庫補助は、経営継承など一定の要件を満たせば、将来特例付加年金として受給できます。また、経営継承の時期についての年齢制限はなく、事情に応じて受給の時期を決められます。

ポイント

3の説明

生涯を通じて税制面で大きな優遇措置があります

- 支払った保険料は、家族の分も含めて全額が社会保険料控除の対象となり、
- 所得税・個人住民税・復興特別所得税が節税になります。(支払った保険料の15%～30%程度が節税)。
- 保険料の運用益が非課税
- 将来受け取る農業者年金には公的年金等控除が適用されます。
- 死亡一時金は非課税です。

事務経費は国が負担しているため、払った保険料の全額が運用されます。

農業者年金の内容やご相談については、
最寄りの農業委員会かJAまたは農業者年金基金に
お問い合わせください。

独立行政法人 農業者年金基金

●専門相談員

TEL: 03-3502-3199

●企画調整室

TEL: 03-3502-3942

終身年金で
安心!

知って得する 農業者年金

農業者の方は、国民年金の上乗せの
公的な年金「農業者年金」に加入して
安心して豊かな老後を!



ポイント

1

農業者なら誰でも入れる「終身年金」です!

ポイント

2

一定の要件を満たす方には、
月額最大**1万円の保険料補助**

ポイント

3

加入で大きな節税効果!
保険料は**全額社会保険料控除の対象**

詳しくは…

農業者年金基金

検索

<https://www.nounen.go.jp>



今号の表紙から

田人町の齋藤清輝さんのハウスでは、正月用に作付けされた水耕栽培のミツバが収穫期を迎え、青々と成長しハウス一面に広がっています。クリスマススイブから年末の一週間で全て取り切るため、家族総出で早朝から作業をします。

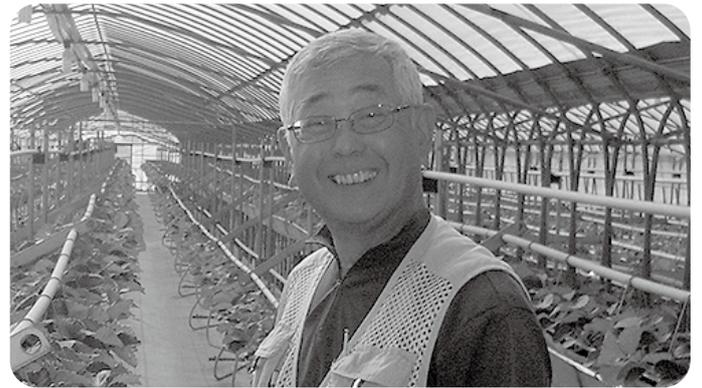
良質な水に酸素濃度を高めるナノバブル発生装置を設置し、農薬や化学肥料の使用を控えるエコ栽培に取り組むなど、工夫を凝らして栽培しています。

ミツバはセリ科の多年草で、彩りや香りを加えるためにお吸い物や茶碗蒸しなどに添えられます。常に脇役的な存在ですが、実は栄養が豊富な上、縁起物の食材としても愛されています。

昔から正月のお雑煮などによく見られる「結び三つ葉」は、縁を結ぶという意味があります。コロナ禍で迎える新年ではありますが、人と人との結びつきを大切に、明るい一年になるよう願わずにはいられません。

(撮影・執筆 遠藤重和 委員)

がんばる農業者 あの人この人



ねもと みつあき
根本 盈明さん(66歳) 平菅波

今回ご紹介するのは、平菅波で水稲160a、いちご20aを栽培する根本盈明(みつあき)さんです。根本さんは、福島さくら農業協同組合いわきいちご部会部会長を歴任するなど、いわき地区のいちご農家の先駆者として活躍されています。根本さんは現状のハウスをそのまま生かした可動式ベッド高設栽培に取り組まれています。可動式ということ、作業通路にも作業時以外はイチゴのベッドが並ぶことによつて

品の使用を減らした栽培をしており、消費者にも自分自身にも安全・安心ないちご作りをしていると話されています。また、GAPにも取り組まれており、福島さくら農業協同組合いわきいちご部会高設栽培研究会の一員として県GAPの団体認証を取得しています。県GAPの取得により安全・安心の取り組みが市場や消費者に認知されていると話されておりました。さまざま活動が評価され、いわき

今までの倍の作付けができ、ハウスを有効利用できる方式です。また、UV E(紫外線ライト)を利用して害虫防除により、今までの1/3まで化学薬

いちご部会部会長だった平成30年度には、いわき市農林業賞を団体で受賞されています。根本さんは、現在菅波区長、夏井区長会会長を務めており、一年中手のかかるいちご栽培と共に地域行政に携わり、地区のためにも尽力されています。令和2年の収穫は11月下旬頃からとのことで、今年も甘くおいしいいわきいちごが食べられるのが楽しみです。多忙の中取材を受けてくださった根本さんに感謝をすることも、これからの益々の活躍を期待したいと思います。



可動式ベッド

(撮影・執筆 箱崎寿正 委員)

農地流動化情報 Vol.46

農業委員会では、耕作を目的とする農地情報の収集・提供を行っています。売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談ください。

◆売りたい			
No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平上神谷字黒磯 (1筆)	田	9.92
2	四倉町狐塚字沼田 (1筆)	畑	3.89
3	四倉町狐塚字房田 (4筆)	田	34.51
4	四倉町狐塚字房田 (1筆)	畑	2.99
5	三沢町弓張 (4筆)	田	31.12

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
6	山田町館下 (1筆)	田	34.10
7	山田町細井 (1筆)	田	5.14
8	山田町余木田 (5筆)	田	66.57

◆貸したい			
No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	錦町成沢 (9筆)	田	61.20

手続き等の詳細を知りたいという方は、農業委員会事務局までお問い合わせください。



お問い合わせ

農業委員会事務局 農地調査係

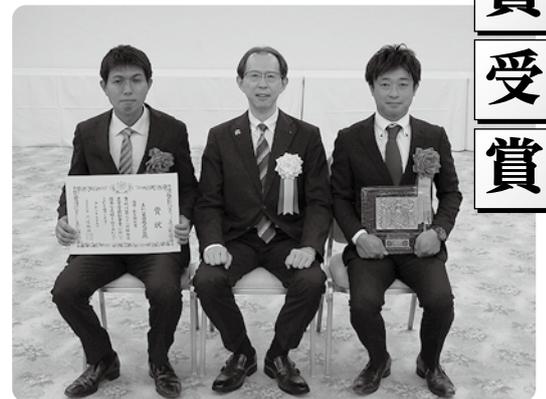
☎0246(22)7574

福島県農業賞受賞

去る9月9日(水)、福島市の杉妻会館において、第61回福島県農業賞表彰式が行われ、いわき市からはあかい菜園株式会社が復興・創生特別賞を受賞しました。

東日本大震災や令和元年東日本台風の被害を乗り越え、地域農業の復活に貢献していることが評価されての受賞となりました。

おめでとうございます。



県情報紙コンクール優秀賞受賞

第37回福島県農業委員会情報紙コンクールにおいて、「いわき市農業委員会だより」184号が優秀賞に選ばれました。

その表彰式が、11月12日に福島市で行われた県下農業委員会大会の席上で行われました。当日は、鈴木理県農業会議会長から表彰状と記念の盾が授与されました。

審査の講評

写真に気を使っており、会議の写真も動きのあるものを使用している。連載「がんばる農業者あの人この人」といった地域の担い手を紹介するコーナーも読みやすい。硬軟合わせた情報が、読みやすく配置されているのもよい。ぜひ、このクオリティーで続けてほしい。



野焼きの際の注意事項

例年、米の収穫期～1月頃にかけて水田等で野焼きの現場が散見されており、現場の周辺住民等から煙や異臭等、多くの苦情が寄せられています。野焼きの中でも、稲わら等の野焼きについては、例外的に認められていますが、前提として周辺地域の生活環境に与える影響を少なくする必要があります。つきましては、野焼きを行う際は以下の2点に十分ご注意ください。

- ①煙、異臭、灰の飛散等、周囲の迷惑とならないよう、周囲の理解を得た上で行ってください。
- ②火災の危険性が高まる時期や、周囲が不審に思う時間帯を避けるようにしてください。

トピックス

平第四小学校の5年生42名が9月29日秋晴れの中、学校近くの5アールの学習田で「まんげつもち(もち米)」の稲刈りを体験し、農業の魅力を学びました。

子供達は、平浄水場近くの黄金色に実った学習田に集まり、地元稲作農家から指導を受けて、鎌の使い方や刈り取りのこつなどを学んだ後、1株ずつ丁寧に刈り取りを行いました。自分達が植えた苗が立派に成長し、感動しながらも笑いを絶やさず真剣に稲刈りをしていました。きっと小学校生活の楽しい思い出になったと思います。

同校は、総合学習の一環として毎年米作りに取り組んでいます。6月1日に田植を行い、成長を観察してきました。11月の収穫祭で学習の成果を披露し、餅つきをして味わったとのことでした。



(撮影・執筆 鈴木義直 委員)



農産物直売イベント「田んぼひっそり市」開催

去る11月22日、いわき市南部の田人町にて農産物直売イベント「田んぼひっそり市」が開催されました。例年はほっこり祭りが開催されますが、感染症流行により中止となりました。しかし、毎年田人の野菜を楽しみにされているお客さんや、手塩にかけて育てた野菜を食べて欲しい農家さんを放つてはおけず、軽トラ市のみではありませんがひっそりと小さな直売イベントとして開催されました。

当日はアルコール消毒やフェースシールド、マスク着用など、対策が講じられ、白菜や大根、自然薯などの新鮮な野菜や手作りこんにやくや栗おふかし、干し柿などの農産物加工品も販売され賑やかなイベントとなりました。

集客する事はばかられる中でしたが、参加された方たちの笑顔を見て、開催され良かったと思えました。



(撮影・執筆 蛭田秀史 副編集委員長)

編集後記

昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、イベントや結婚式など、様々な社会活動が延期、中止、自粛となりました。経済活動が著しく低下する中、東日本大震災以降業務用米に移行し全国一位の生産高になった我が県も大きな打撃を受けたと思われまます。米農家のみならず農業従事者にとって厳しい時代となっています。

しかし、人々は新しい生活様式を受け入れて社会活動を再開し、政府のGOTOキャンペーン効果で経済活動も回復の兆しを見せています。我々が今すべき事は今を憂いて歩みを止めるのではなく、コロナありきの世界で何が出来るかを考え行動する事だと思えます。

今年が昨年の知識と経験から良い方向へ転換出来ることを期待したい。気持ち落ち込む中、希望の星として延期と

編集委員



遠藤重和 ・ 鈴木義直
草野久仁昭 ・ 箱崎寿正 ・ 和田正人
蛭田秀史副委員長 ・ 蛭田元起委員長